

藤原定明の謎解きシリーズ

ヤタガラス

と

大本教に預言された

「一厘の秘密と仕組」

1、神の「一厘の秘密と仕組」

2、『靈界物語』と八咫烏（暗号者）

3、「三重の金殿」と「約束の地」

1、神の「一厘の秘密と仕組」

◆大本教の開教

- ・明治25年(1892)2月3日の節分の日、**出口直**は突然激しい神がかり状態となり、「良^{うしとら}の金神」が言葉を発した
- ・明治25年の2月3日の節分に、出口直の口から発せられた神勅は「^{しんちよく}初^{しょはつ}発^{しんちよく}の神勅」と呼ばれ、これをもって大本教の開教としている

「三ぜん世界一同いちどに開く梅の花、良うしとらの金神こんじんの世に成りたぞよ。梅で開いて松で治める、神国の世になりたぞよ。

日本は神道、神が構はな行けぬ国であるぞよ。外国はけもの獣類の世、強いもの勝ちの、悪魔ばかりの国であるぞよ。

日本も獣の世になりて居おるぞよ。外国人にばかにされて、尻の毛まで抜かれて居りても、未だ眼が覚めん暗がりの世になりて居るぞよ。

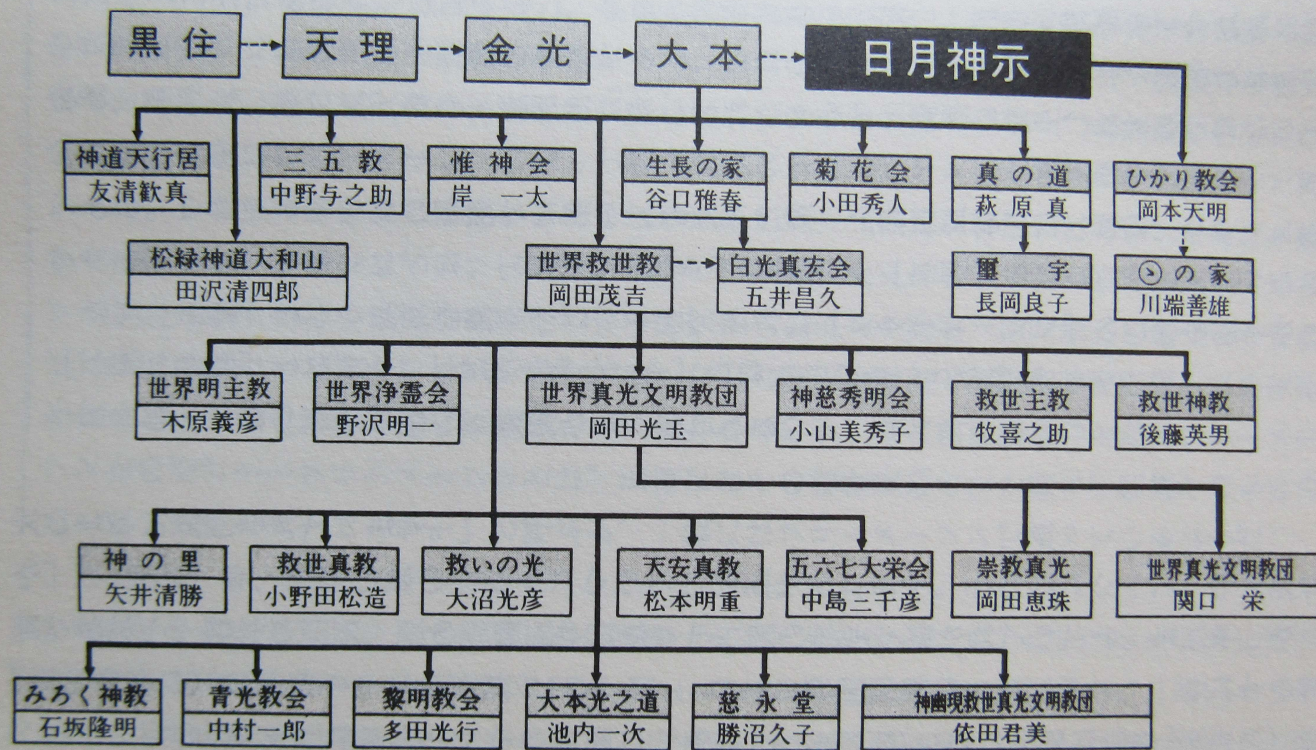
これ是では、国は立ちて行かんから、神が表に現れて、三千世界の立替へ立直しを致すぞよ。用意をなされよ。

この世は全然、新つさらの世しまに替へて了うぞよ。

三千世界の大洗濯だいせんたく、大掃除おおそうじを致して、天下太平に世を治めて、ばんごまつだい 万古末代続く神国の世に致すぞよ。神の申した事は、一分一厘違はんぞよ。

…天理、金光、黒住、妙霊、先走り、とどめに良の金神が現れて、世の立替を致すぞよ。世の立替のあるという事は、ど 何の神柱かんばしらにも判りて居れど、ど 何うしたら立替が出来るといふ事は、判りて居らんぞよ。九分九厘まで知らしてあるが、モウ一厘の肝心の事は、判りて居らんぞよ。

三千世界の事は、何^{なん}一^{ひとつ}とつ判らん事のない神であるから、
淋しくなった、綾部^{あやべ}の大本へ出て参りて、お話を聞かして頂
けば、何^{なに}も彼^かも世界^{ひとめ}一目に見える、神徳を授けるぞ
よ。・・・」(明治25年旧正月)(「大本神諭 第一集」 編集者:大本神
諭刊行委員会 発行者:出口孝樹 発行所:愛善世界社より)



(中矢伸一・著『日月神示』より)

- ・黒住、天理、金光、大本などの天啓は、日本列島に押し込められた正神復活の宣言であり、世を立て替え立て直して**ミロクの世界、地上天国を建設**するという神の計画を少しずつ人類に知らしめる先駆的役割(中矢伸一著 『日月神示』)

➡それらの天啓も神の計画であり、それは「約束の人」再臨の地ならし

◆大本教の拡大

- ・「昭和神聖会」(昭和9年・1934に救国運動を目的につくった会)

当時の日本の人口は7000万人だったが、800万人の賛同者を集めた

- ・大正末期頃から海外へ進出

イランのイスラム教系の新興宗教の「バハイ教」、中国の新興宗教、道院・紅卍会(道院の外部活動団体)などアジア地域をはじめヨーロッパや北米のカナダにまで及ぶ

- ・他宗教との提携は、「万教同根」という考え方による

★「**万教同根**」⇒「すべての宗教の根源は一つの神であり、万教は同根である」

◆『靈界物語』

- ・大本(教)の經典の一つで、大本教の教祖の一人**出口王仁三郎**が26歳の時に、京都府亀岡市の高熊山の岩窟での靈的修行で**靈眼**、**靈耳**した話
れいげん れいじ
- ・「靈界」とは「靈妙な世界」の略で、目に見える世界と目に見えない世界の、すべてを含めた大宇宙全体のこと
- ・「35万年前の太古の神代の話」という設定だが、**現代のドラマ**でもあり**未来の予言**でもある
- ・救世主スサノウが、地上の人類を喰い荒らす八岐大蛇を退治して、**国祖・^{くに}国常立尊**とこたちのみことを復活させ**「ミロクの世界」**を成就して**世界を救う**物語
- ・72巻までの36(ミロク)巻までは**神宝の争奪戦**で、37巻以降は**国家権力をめぐる国取りの物語** (『靈界物語入門ガイド』 飯塚弘明)

◆『靈界物語』の目次(飯塚弘明氏がインターネット公開)

	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌
靈主体従	第 1 卷	第 2 卷	第 3 卷	第 4 卷	第 5 卷	第 6 卷	第 7 卷	第 8 卷	第 9 卷	第 10 卷	第 11 卷
如意宝珠	第 13 卷	第 14 卷	第 15 卷	第 16 卷	第 17 卷	第 18 卷	第 19 卷	第 20 卷	第 21 卷	第 22 卷	第 23 卷
海洋万里	第 25 卷	第 26 卷	第 27 卷	第 28 卷	第 29 卷	第 30 卷	第 31 卷	第 32 卷	第 33 卷	第 34 卷	第 35 卷
舍身活躍	第 37 卷	第 38 卷	第 39 卷	第 40 卷	第 41 卷	第 42 卷	第 43 卷	第 44 卷	第 45 卷	第 46 卷	第 47 卷
真善美愛	第 49 卷	第 50 卷	第 51 卷	第 52 卷	第 53 卷	第 54 卷	第 55 卷	第 56 卷	第 57 卷	第 58 卷	第 59 卷
山河草木	第 61 卷	第 62 卷	第 63 卷	第 64 卷上 第 64 卷下	第 65 卷	第 66 卷	第 67 卷	第 68 卷	第 69 卷	第 70 卷	第 71 卷
天祥地瑞	第 73 卷	第 74 卷	第 75 卷	第 76 卷	第 77 卷	第 78 卷	第 79 卷	第 80 卷	第 81 卷		

◆1巻 附記 霊界物語について

「霊界物語は総計壱百二十巻をもつて完成する予定になつてをります。しかしながら是だけ浩瀚^{こうかん}な著述を全部読了せなくては、神幽現^{しんゆうげん}の三界の経緯が判らないなどと思ふのは間違ひ^{はなは}の甚^{はなは}だしきものです。経^{きやう}を訓むには、冒頭^よの一篇^{いつぺん}を充分^{がんみ}に玩味して腹に畳み込めば、すべての精神が明瞭^{かい}に解し得らるるものです。…本書もまた第一巻^あの或る一点^あを読めば全巻の精神が判るはずである。……」

◆飯塚弘明氏によると、『霊界物語』は何通りでも御魂相応に解釈できる」と、出口王仁三郎は言っているという。また、タテからから読んだりヨコから読んだり、色んな角度から読むと、きっと驚くような発見があるはずだと述べられている。(『霊界物語入門ガイド』 飯塚弘明)

◆神の「一輪(厘)の秘密と仕組」は第一巻にある

「一輪の秘密」(『靈界物語』**第一卷**35章)

「・・・世界の**終末**に際し、**世界改造**のために**大神**の御使
用になる珍の**御宝**である。しかしてこれを使用さるる御
神業がすなわち一輪の秘密である。・・・」

「一輪の仕組」(『靈界物語』**第一卷**36章)

「国常立尊は邪神のために、**三個の神宝**を奪取せられむことを遠く

おもんばかり

慮りたまひ、周到なる注意のもとにこれを竜宮島および鬼門島に秘

したまうた。そして尚も注意を加えられおおやしまひこの大八洲彦命、きんかつかねのかみ金勝要神、うなばらひこの海原彦

神、みはしらのかみ国の御柱神、とよたまひめのかみ豊玉姫神、たまよりひめのかみ玉依姫神たちにも極秘にして、

その**三個の珠の対のみ**たま たいを両島に納めておき、肝腎の**珠の精霊**をシナイ山の山頂へ、何神にも知らしめずして秘し置かれた。これは大神の深甚

なる水も漏らさぬごけいりん御経綸であって、**一厘の仕組**とあるはこのことを指した

まへる神示である。…」

◆神の「一輪(厘)の秘密と仕組」の「輪」と「厘」について

一輪の意味

「・・・日の本に只のただ一輪咲いた梅の花の仕組みで、・・・」
(『大本神諭』 明治32年旧7月1日)

一厘の意味

「・・・九分九厘まで知らせてあるが、モウ一厘の肝心の事は、判りて居らんぞよ。・・・」(『大本神諭』 明治25年旧正月)

※神の「一輪(厘)の秘密と仕組」とは

「一輪の花」と「1パーセント」の、神の秘密の仕組

◆神の「一厘の秘密と仕組」の内容

終末に、大神が**世界改造**を行うために「神宝」(**三個の神宝**)を使用するので、その「神宝」は邪神に奪われてはいけない。

そこで、肝腎の**神宝の精霊**は、誰にも言わずに**シナイ山**の山頂に隠し、精霊の抜けた**形だけの神宝**を竜宮島および鬼門島に隠した

◆神宝は「契約の箱」と三種神器を暗示

- ・**シナイ山**⇒預言者モーゼが神から**十戒**を授けられた山
(「**十戒石版**」と「**マナの壺**」と「**アロンの杖**」
=イスラエルの三種神器)
- ・**三個の神宝**⇒イスラエルの**三種神器**
- ・三種神器が納められているのが⇒「**契約の箱**」

◆「契約の箱」とは



(契約の箱のレプリカ)



フランスのサント・マリー大聖堂に彫られた「契約の箱」



神輿

「契約の箱」とは

- ・神の指示通りの材料、サイズ、デザインで作られた木製の箱
- ・「契約の箱」は祭司たちによって運ばれ、留まる場合は「幕屋」という移動式の神殿のなかに安置した
- ・箱の中には、モーゼの十戒が刻まれた2枚の石板が収められている
- ・十戒は神ヤハウェとイスラエル人の間で結ばれた**契約に基づく掟**
- ・契約の掟が書かれた石板を収めた箱なので「**契約の箱**」と呼ばれる
- ・アカシヤの木で作られ、長さが100から130cm程度、幅と高さが60～80cm程度
- ・下部の四隅には脚が付けられ、直接地面に触れないようにできている
- ・持ち運びするために、箱に2本の棒が取り付けられている

- ・全てが純金で覆われ、箱の上部には金の打ち物造りによる**智天使**（ケルビム）が2体乗せられている
- ・智天使（ケルビム）とは天使の一種で、「主はケルビムの上に座せられる。」（旧約聖書 詩編99編1節）といった記述があるので「**神の玉座**」「**神の乗り物**」としての一面が見られる（ウィキペディア百科事典 智天使の説明）
- ・「契約の箱」は宗教的には**神ヤハウエの玉座**、すなわち**神ヤハウエの臨在を象徴する**

（ウィキペディア百科事典 日本百科全書（ニッポニカ） その他）

◆「契約の箱」は失われた

- ・モーゼの時代、「契約の箱」の中には「十戒石版」のほかにマナを納めた「マナの壺」と「アロンの杖」の、イスラエルの「三種の神器」が納められていた
- ・ソロモン王の時代(紀元前911～紀元前931)には、「十戒石版」以外には何も入っていなかった
- ・その後、「契約の箱」は失われてしまが、『聖書』には、「契約の箱」は終末に姿を現すと預言されている

◆「契約の箱」の消息

- ・ソロモン王の時代、シバの女王によってエチオピアに持ち去られ現在もエチオピアにあるという説
- ・エルサレム陥落の前に、エルサレムの地下に隠された、あるいは破壊されたという説
- ・失われた「イスラエルの10支族」によって運び去られたという説がある

◆失われた「イスラエルの10支族」

＝秦氏（4世紀の後半、第15代・応神天皇の時代に、朝鮮半島から日本に渡来した古代氏族）

＝秘密結社「ヤタガラス」（暗号者）

◆失われた「イスラエルの10支族」について

- ・イスラエルの歴史はBC17世紀頃のアブラハムから始まり、孫のヤコブの時代にエジプトに移住する
- ・ヤコブが「神の御使い」と一晩格闘して勝ったのを記念して、神がヤコブに授けた名前がイスラエル
- ・ヤコブの12人の子供から、「イスラエルの12支族」が誕生する
- ・その子孫はやがてエジプト人の奴隷となり、奴隷の時代が400年ほど続くが、BC13世紀に預言者「モーゼ」が、イスラエル人を率いてエジプトを脱出
- ・モーゼの跡を引き継いだ預言者「ヨシュア・ベン・ヌン」は、イスラエル人を率いて現在の「パレスチナ地方」に腰を下ろす

- ・その後、ダビデ王(BC1004～BC965)の時代にイスラエルを統一し12支族が一つになる
- ・しかし、ダビデの跡を継いだソロモン王(BC965～BC930)の死後、イスラエルは「サマリア」を首都とする「北朝イスラエル王国」と、「エルサレム」を首都とする「南朝ユダ王国」に分かれる
- ・北朝イスラエル王国は、ルベン族、シメオン族、イッサカル族、ゼブルン族、エフライム族、マナセ族、ダン族、ナフタリ族、ガド族、アシエル族の10支族から構成された
- ・南朝ユダ王国はユダ族、ベニミヤン族から構成された
- ・ただし、レビ族だけは祭祀人のため、両国それぞれに帰順した

・その後BC8世紀頃、メソポタミア地方に「アッシリア帝国」が勢力を拡大して

次々に周辺国家を滅ぼし、**北朝イスラエル王国はBC722年に滅亡する**

・10支族は捕虜^{ほりよ}としてアッシリアに連行されたが、**その後の10支族の行方が分からなくなった**

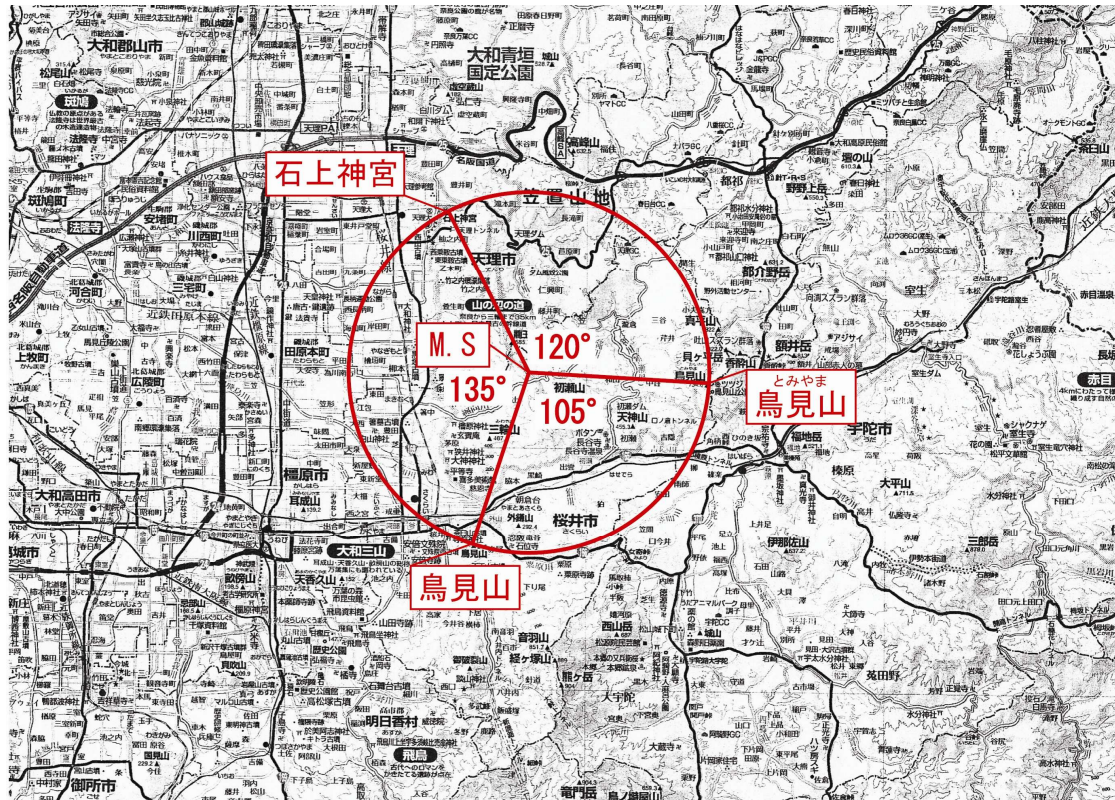
⇒これが、世界史の最大の謎の一つともいわれる、失われた「イスラエル10支族」の謎

※失われた「イスラエルの10支族」は、アフガニスタンやインドや中国で暮らしているという説や、**朝鮮や日本に渡った**という説がある

(『秦氏の謎』 飛鳥昭雄・三神たける著 学研)

(『失われた契約の聖櫃アークの謎』飛鳥昭雄・三神たける著 学研)

◆秘密結社「ヤタガラス」の暗号(三羽の鳥の暗号)



↑神武天皇の弓先に止まった金鷲。

➡暗号者＝秘密結社「ヤタガラス」

◆「約束の地」で発見されたミステリーポール



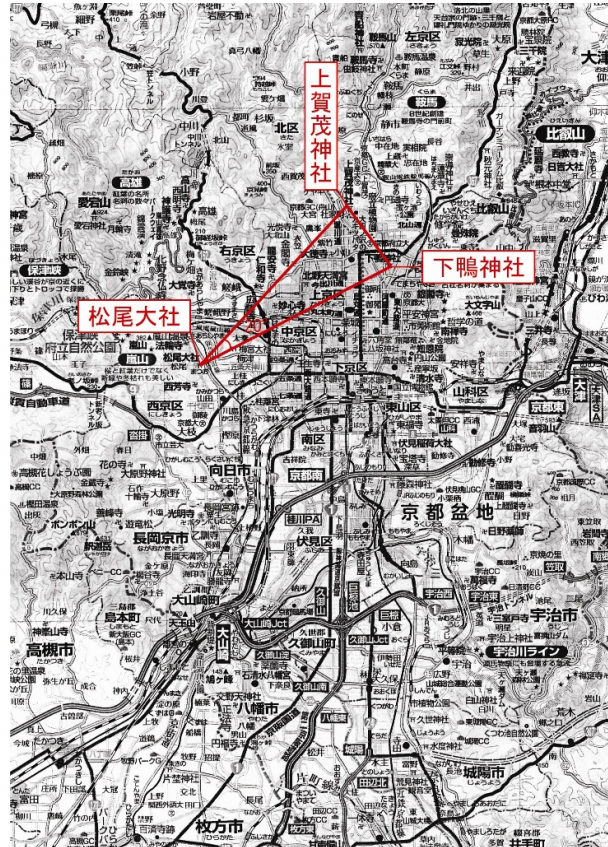
◆暗号者(秘密結社「ヤタガラス」)の発言

- 太古から大和朝廷に仕える陰陽集団
- 日本に国仕掛けをした(暗号を仕掛けた)
- 仕掛けの防御を打ち破り、日本の秘密を解きあかす
(暗号を解読する)「解き放たれし者」と「**預言されし者**」を待っている

(『失われたカッパ―ラ「陰陽道」の謎』飛鳥昭雄・三神たける著学研)

→「約束の地」の「三羽の鳥の円」は
秘密結社「ヤタガラス」仕掛けられた「暗号」

◆二等辺三角形の「三羽の鳥」の暗号



➡秘密結社「ヤタガラス」= 秦氏

〈参考〉

「三羽の鳥」の暗号

三羽 = サンワ = 三つの円 ➡ 三輪(円)

大神神社 = 大みわ神社

神 = みわ・三輪(三つの円)

➡「三つの円」に刻まれているのは「神の計画」

◆秘密結社「ヤタガラス」の関係者と接触のある、
飛鳥昭雄氏は、「契約の箱」は秦氏が日本に持ち込み伊勢神宮に隠されていると主張

※秦氏＝失われた「イスラエルの10支族」
＝秘密結社ヤタガラス

(『失われた契約の聖櫃アークの謎』飛鳥昭雄・三神たける著 学研)

(『失われたアークは伊勢神宮にあった』飛鳥昭雄著 雷韻出版)

〈根拠〉

- **秦氏**はイスラエルから日本に渡ってきた
- 「契約の箱」は「幕屋」という移動式の神殿のなかで祀られていたが、日本の神社の形は幕屋をもとにしている
- 神社の創建に、**秦氏**が深く関わっている
- 「元伊勢伝承」の27か所の神社が、すべて秦氏と関係があり、神宮の移動の背後に**秦氏**の関与があった
- みこし神輿と「契約の箱」の類似性
- 意味不明のお祭りの「はやし言葉」が、古代の朝鮮語やヘブライ語で解釈できる

2、『靈界物語』と八咫烏(暗号者)

これまで

「一厘の秘密と仕組」に記された「シナイ山」と「三個の神宝」という2つのキーワードから、「契約の箱」の消息を追ってきた

➡「**契約の箱**」は**暗号者**（秘密結社ヤタガラス・秦氏・失われた「イスラエル10支族」）によって日本に運ばれ、**伊勢神宮**に隠されているという結論に到達した

◆同じことが『靈界物語』にも暗示されている

- ・「一厘の秘密と仕組」を読み解くヒントを探すために、まず、表題やタイトルを見ていった
- ・第二六巻を開いた時に「**真心の花**」というタイトルがあり、そこに**八咫鳥**が記されている

第二六卷 第二章 真心の花(一)〔七六七〕

…^{さんぜんせかい}三千世界の^{かむだから}神宝^{こんがうふる}金剛不壊の^{によいほつしゆ}如意宝珠^{ちよ}千代に^{やちよ}八千代
に^{とこしへ}永久に^{うご}動かぬ^{まつ}松の^{みき}幹の根に^{まつ}隠し^{まつ}奉りて^あ開け^{わた}渡る^{あま}天
の^{いはと}岩戸も^{みろく}五六七の^よ世^{ひら}開かむための^{おんしぐみ}御経綸^{しらなみ}深き心の白浪
の^{このよあのよ}高姫司や黒姫が^{このよあのよ}玉の在処を探らんと^{このよあのよ}現界幽界の瀬
戸の海^{このよあのよ}太平洋の荒浪を^{このよあのよ}乗り越え乗り越え竜宮の^{このよあのよ}一つの
島に上陸し^{このよあのよ}隠せし場所を探らむと^{このよあのよ}焦ち^{たま}給うぞ悲しけ
れ…^{わらは}妾も^{おな}同じ^{りうぐう}竜宮の^{ひとつ}一つの島へ^{しま}上陸し^{じやうりく}人跡^{じんせき}絶えし

あらのほら 山を踏み越え谷渉り 黄金の波を湛へたる 玉依姫

の隠れ場所 諏訪の湖水に辿り着き 神の御旨をあなたひ

て 三五教の御教を 彼方此方と布き広め 広め終つて

やあたらす 黄金の翼に乗せられて 朝日輝き夕日照る 竜の

みやゐ
宮居にいます……」

〈解説〉

- ・「神宝」を隠したのは、すなわち神の「一厘の秘密と仕組」は、
天の岩戸開き、すなわち「^み^ろ^く五六七の世」を開くためだと記されている

※天岩戸開き：世界の再生や新しい時代の幕開けを象徴

※^み^ろ^く五六七の世：救世主（^み^ろ^く弥勒）が実現する理想的な世界

あななひけう　みをしへ　あなた　こなた　し　ひろ
・三五教の御教を彼方此方と布き拡め弘め終って八咫鳥

こがね　つばさ　の
黄金の翼に乗せられて

※三五教とは『靈界物語』の主人公スサノウが導く宗教

※『靈界物語』は三五教を伝える宣伝史の身魂磨きの物語

・秘密結社ヤタガラス(星の暗号者)は、日本の神の教えを
(世の元の教え)を世界中に伝えた

➡「一厘の秘密と仕組」は、暗号者・秘密結社「ヤタガラス」と
関係があることを、『靈界物語』にも暗示されているのかわ
しれない？

- ・そう思い、もう一度『霊界物語』の第1巻に戻ると38章の「黄金水の精」のところに、「契約の箱」は伊勢神宮に隠されていることが暗示されている

〈参考〉第1巻35章「一輪の秘密」 36章「一輪の仕組」

37章「うつしくに 顕国みたまの御玉」 38章が「黄金水の精」

第一卷 第三十八章 黄金水の精〔三八〕

わかひめぎみのみこと きんかつかねのかみ おほやしまひこのみこと くわんき
「ここに稚姫君命、金勝要神、大八洲彦命は歡喜のあまり、

ざん おほがひをがひ き き あたら みふね たま
シオン山の大峡小峡の木を切り 新しき御船をつくり、また珠をおさむ

しらき みこし うやうや うつしくに みたま ほうあん みこし
る白木の御輿をしつらへ、 恭しく顕国の御玉を奉按し、これを御輿

みふね せいちゆう あんち やすかは くだ りゆうぐうじやう きくわん
もろとも御船の正中に安置し、安河を下りて竜宮城に帰還し、

みへ きんでん ふか ひざう こんがうふえ うつしくに みたま
三重の金殿に深く秘蔵したまうた。……金剛不壊の顕国の御玉は、

じじこくこく くわうど ま いちじ すうひやく たいやう あら
時々刻々に光度を増し、一時に数百の太陽の現はれしごとく、

しんじんみな くわうとく まば め ひら あた まんいちめ ひら しつめい
神人皆その光徳の眩ゆさに眼を開く能はず、 万一眼を開くときは失明
するにいたるくらゐである。

くにとこたちのみこと しんゐ かくしやく きやうき
ここに国常立尊は、 神威の赫灼たるに驚喜したまひしが、 さりとて

りゆうぐうじやう ほうさい ちうちよ てんうん
このまま竜宮城にあからさまに奉祭することを躊躇したまひ、 天運の

じゆんかん しけんしらう みへ きんでん やへたたみ し
循環しきたるまで、 至堅至牢なる三重の金殿に八重畳を布き、 その

うへ みこし あんち じふにへ とちやう おほ ふか ひさい
上に御輿もろとも安置し、 十二重の戸帳をもつてこれを掩ひ深く秘斎し

たまうた。……」

〈解説〉

- ・「^{うつくしに}顯^み國^{たま}の御玉」とは神宝の一種で、天地剖判ほうばんの時に誕生した岩石
 - ・・・「十戒石版」を暗示
 - ・「顯國の御玉」(十戒石版)が納められているのが「神輿」
 - ・「神輿」・・・「契約の箱」を暗示
 - ・「天運の循環しきたるまで」とは「終末」(約束の時)

 - ・「三重の金殿」・・・「三重県」伊勢市の伊勢神宮を暗示
- ➡「契約の箱」は、終末まで伊勢神宮に隠されている

3、「三重の金殿」と「約束の地」

◆38章の「黄金水の精」には

もう一つ重要なメッセージが刻まれている

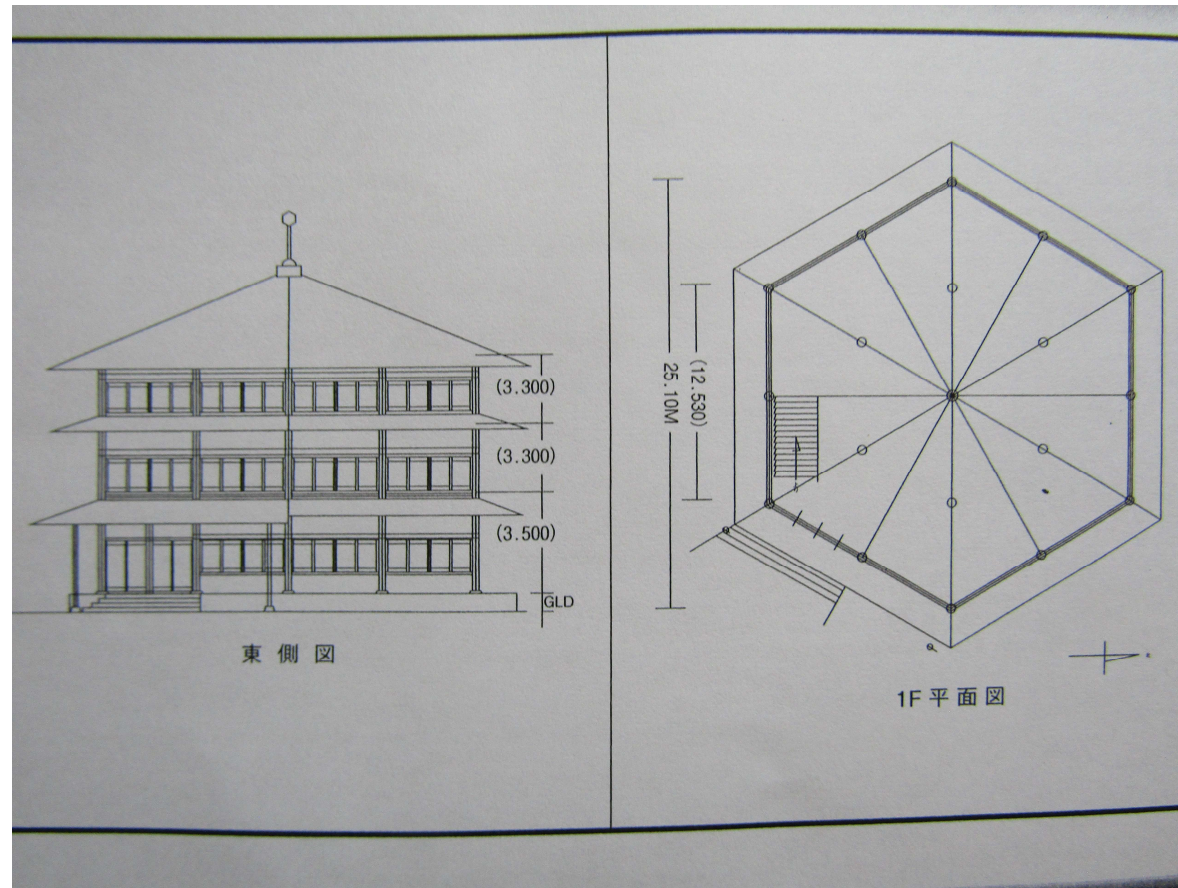
(次に示すのは、先に紹介した、38章の「黄金水の精」の続き)

「…それより三重の金殿はにはかに光を増し、その光
は上は天を照し、下は葦原の瑞穂国隈なく照り輝くに
いたつた。

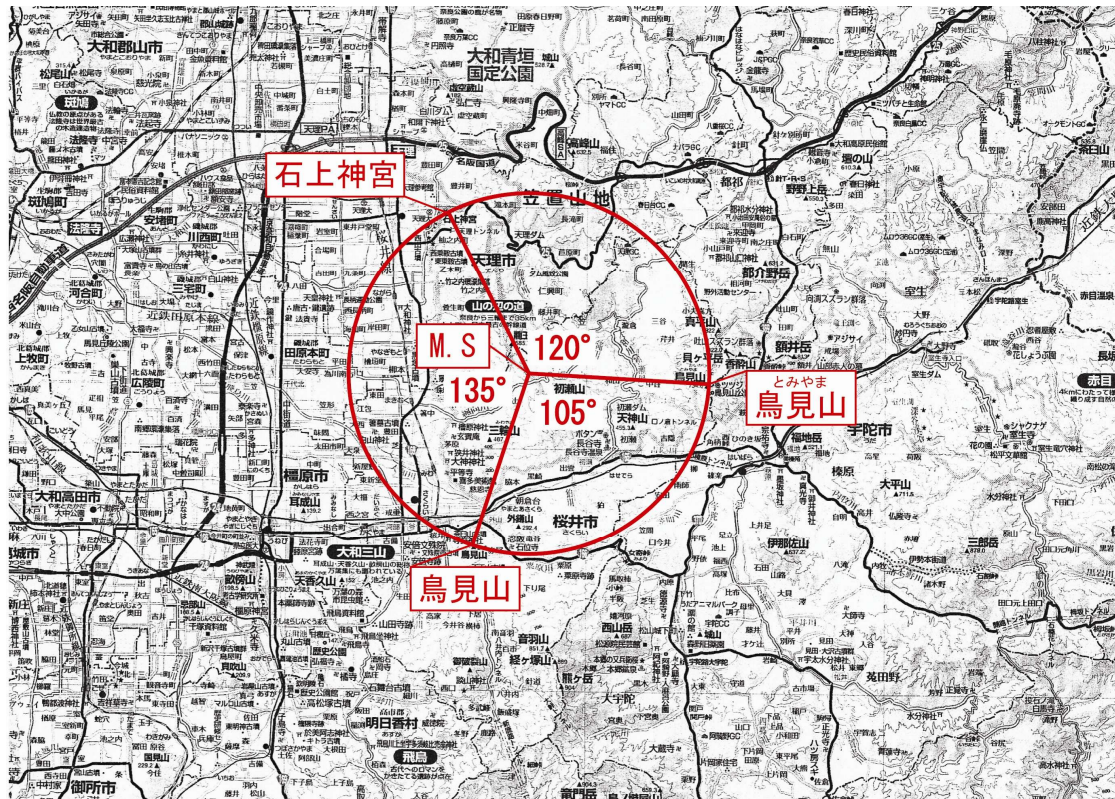
金色の鷄は常に金殿の上空に翱翔し、天地の諸善神、
時に集まりきたつて、微妙の音楽を奏し遊び戯れたま
ふ、 実に五六七神世の実現、天の岩戸開きの光景も
かくやと思はるるばかりである。…」

- ◆「約束の地」に再現する予定の**最高神の「住まい」**は、
形も寸法も決められているが、それは「**三重の塔**」
- ◆「**金色の鷄**」は秘密結社「ヤタガラス」を示し、それは、
「**三重の金殿**」がそびえ立つ場所が「**約束の地**」である
ことを示している

「約束の地」に再現される「最高神の住まい」の設計図



◆秘密結社「ヤタガラス」の暗号(三羽の鳥の暗号)



↑神武天皇の弓先に止まった金鷲。

「三重の金殿」

➡三重県にある**伊勢神宮**

➡「約束の地」に再現される「**三重の塔**」(最高神の住まい)

◆これで「一厘の秘密と仕組」は読み解ける

「終末に、大神が世界改造を行うために使用する神宝は、邪神に奪われてはいけない。そこで、肝腎の神宝の精霊は、誰にも言わずにシナイ山の山頂に隠し、精霊の抜けた形だけの神宝を、竜宮島および鬼門島に隠した」

➡「**神宝の精霊**」は「**約束の地**」(神宮の元の場所)に
隠され、「**精霊の抜けた形だけの神宝**」は**伊勢神宮**に
隠されている

◆「一厘の秘密と仕組」とは

神宝(契約の箱)は、終末(約束の時)に、大神が世界改造を行うために使用するものである。

それは邪神に奪われてはいけない。

そこで、秘密結社「ヤタガラス」(失われた「イスラエルの10支族」・秦氏)は、神宝(契約の箱)をエルサレムから日本に持ち込んだ。

そして肝腎の神宝の精霊は誰にも言わずに「約束の地」(神宮の元の場所)に隠し、神宮を伊勢に遷して精霊の抜けた形だけの神宝(契約の箱)を伊勢神宮に隠した

〈参考〉

大洪水の際(大峠)には、「三重の金殿」から

あめ うきはし
「天の浮橋」が天空に延びて、地上の神々を救済する

(5～6巻) (『霊界物語入門ガイド』 飯塚弘明)

〈参考〉

第6巻 第3篇 大峠 第16章 大洪水(二)

「世は焼劫よ しょうごう ひんに瀕せるか、酷熱こくねつの太陽数個一時に現はれて、地上に熱を放射し、大地の氷山を溶解したる水は大地中心の凹部あんぶなる地球に向つて流れ集まり、地球は冷水刻々に増加して、さしにも高き山の尾上をのへも次第々々に影を没するに至りけるいた。

このとき星はその位置を変じ、太陽は前後左右に動揺し、地は激
動して形容し難き大音響がたに充されたりぬ。太陽は黒雲くろくもに包まれ、
地上は暗黒と変じ、咫尺しせき べんを弁ぜざる光景とはなりぬ。

か
彼の竜宮城に在りし三重の金殿は、中空に際限もなく延長して、
金銀銅色の天橋てんきょうを成し、各自天橋よりは金銀銅色の靈線すゐかを垂下
し、その端の救ひの鉤かぎをもつて、正しき神人しんじんを橋上けうじやうに引き揚げ始
めたり。

天橋の上には蟻の群がる如く、^{あまた}数多の神人が救ひ^あ上げられ、天橋は再び回転を開始したり。東西に延長せる天橋は、南に西に北に東と中空を廻り、^{めぐ}天教山、^{てんけうざん}地教山^{ちけうざん}その他数ヶ所^{かうざん}の高山^{いただき}の巔に、救はれたる^{しんじん}神人を送り、またもや^{うきせ}憂瀬に沈み苦しめる正しき神人を救ひの^{かぎ}鈎を以て次第々々に天橋の上に^ひ引き揚げ^あたまひける。このとき天教山の宣伝使は、何時^{いつ}の間^まにか^{おうごんきょう}黄金橋の上に立ち、金色の靈線を泥海に投げ、漂流する^{しんじん}正しき神人を引き揚げつつあり。

しか
而して天橋に神人の充満するを待ちて、きぢゆうき 天橋は起重機の

ごとく東南西北に転回し、そのみたまさうたう身魂相当のかうざん高山に運ばれゆくなり。

神諭に、『誠の者は、さあ今と云ふい所ところになりたら、神が見届けて

あるから、たとひ泥海の中でもつま摘みあ上げてやるぞよ』と示されある
を、想ひ出さしめらるるなり。……」

◆「こころの花」と神の「一輪(厘)の秘密と仕組」

神の「一輪(厘)の秘密と仕組」とは

➡「一輪の花」の神の秘密の仕組

➡「1パーセント」の神の秘密の仕組

「1パーセント」の神の秘密の仕組とは

★神の「一輪(厘)の秘密と仕組」は「約束の人」(香代子先生)が預かった「神の救いの計画」を知ること、はじめて読み解ける

◆「1パーセント」の神の秘密の仕組

➡「約束の人」香代子先生と秘密結社「ヤタガラス」が神から預かった「神の救いの計画」(秘密結社「ヤタガラス」の暗号に刻まれている)に関係がある

「一輪の花」の神の秘密と仕組とは

- ★香代子先生の会「**こころの花**」と、「約束の地」に甦る「**約束の人**」香代子先生に関係があることを暗示
- ★第二六巻 第二章 **真心の花** (一)に「一厘の秘密と仕組」は、
天の岩戸・^{みろく}五六七の世を開くための^{しくみ}経綸だと記されている
- ★第一巻38章の「黄金水の精」には、^{こんじき とび}金色の鷄が暗示する「**約束の地**」に「**三重の金殿**」(三重の塔・最高神の住まい)がそびえ
^{みろくしんせい じつげん あま いはとびら くわうけい}立つことが、**五六七神世の実現、天の岩戸開き**の光景だと記されている

★「約束の人」香代子先生の会「**こころの花**」の目標は、「新しい時代」の子どもたちを救うために、「約束の地」に「最高神の住まい」(三重の塔)の再現し、「新しい時代」の**世界の雛型**になるコミュニティモデルをつくること

◆「**一輪の花**」の神の秘密と仕組

みろくしんせい

➡**五六七神世の実現、天の岩戸開き**のための、神の秘密の**経綸**
が「**こころの花**」であることを暗示

しくみ

※天岩戸開き:世界の再生や新しい時代の幕開けを象徴

みろく

みろく

※五六七の世:救世主(弥勒)が実現する理想的な世界